

2013年度 学校評価報告書 所属名（ 京都聖母学院小学校 ）

学校目標	豊かな学力と創造性を持ち、誰に対しても誠実で礼儀正しく、奉仕の喜びを知る子どもを育てる
------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック精神に基づく心の教育 ・基礎学力の充実とよりレベルの高い授業 ・しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育 ・有意義な研修による教員のスキルアップ
------	--

学 校 自 己 評 価			
目 標		評 価 (児童12月12日実施 保護者12月13日～18日に実施)	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果
1	カトリック精神に基づく心の教育	<ul style="list-style-type: none"> * 宗教と並行して道徳の授業を進め、カトリックの精神を学ぶとともに人間の生き方についても学んでいく。 * 誕生学で命の大切さを学んだり、ルワンダの実情を知り募金をしたり、支援の活動を展開していくことで奉仕の素晴らしさを知らせる。 * 学年のミサができるようにミサにあずかる機会を増やし、例年の宗教行事も充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 宗教担当の教員と担任が協力して、月2回の道徳授業を実施できるように努めた。道徳の公開授業も実施し、よりレベルの高い授業を目指すことができた。 * ルワンダから、ガテラさん・真美さんが来校し、ルワンダの様子を説明したり子どもたちと交流したりした。今年度は保護者にも呼びかけ、子どもたちの活動を知ってもらう機会を設けた。 * 例年行われている4～6年の学年末修養会をミサの形にした。また、各宗教行事で意味を説明し、子どもたちが理解したうえで行事に参加できるよう、配慮した。
2	基礎学力の充実とよりレベルの高い授業	<ul style="list-style-type: none"> * 学年に応じた計算力をつける。 * 漢字能力を伸ばし、全校漢字検定合格率アップを目指す。 * 作文能力を伸ばす。 * 朝の1分間スピーチで考えをまとめて話す力をつける。 * さまざまな実験を取り入れ理科の興味関心を高める。 * 読書をする習慣を見につける。 * 基本的な学力を身につけるために補習を実施し理解を深める。 * 国際・総合ともに英語能力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> * 副担任が担当して、各学年に応じた計算テストを毎日継続し事後指導も充実させることによって計算力がアップした。 * 漢字検定の合格率が伸びた。 * 日記をつけ担任に提出することによって担任とのコミュニケーションをとると共に作文能力を伸ばした。 * 各学年に応じたスピーチをすることによって自分の考えを表現する能力が伸びた。 * 専門家の出張授業を取り入れることで、本格的な実験を体験させることができた。 * 朝読書をはじめたことで、1日が静かに始まり授業がスムーズにスタートできた。また、読書量も増えた。 * 高学年は以前から補習を実施していたが、今年度は低学年の補習も実施することで基礎学力の定着に努めた。 * 総合の英語授業を昨年度に引き続き、2つに分けて実施し、個別指導に力を入れた。また、イングリッシュチャットを充実させた。
3	しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育	<ul style="list-style-type: none"> * 朝礼・儀式の際により厳粛な雰囲気になるように指導する。 * 身だしなみを整え、きまりを守るよう指導する。 * 登下校の際の車中のマナーなど具体的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 朝礼を初めとする儀式の行き帰りに私語を慎むよう指導すると共に、儀式中の態度も細かく指示することで緊張感を持って儀式に望めるようになった。 * 登下校時の制服の着方について指導したことによって、子どもたち自ら身だしなみに気を使うようになった。 * 登校班会議で指導・話し合いをすると共に、必要に応じて登校班を召集して指導した結果、車中での態度を向上させようと努力するようになった。
4	有意義な研修による教員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> * 授業力の向上 * 基礎能力の向上 * 若手教員の養成 * ネイティブ教員のスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> * 学期1回の研究授業・各公開授業・公開研究会を通して、各々の授業を見直し向上するべく努力した。 * 年5回の教員研修を実施し、学外の研修に積極的に参加することによってそれぞれの基礎能力を向上させることができた。 * 学内新任研修の実施や西日本・京都の私学連合研修の参加などを進めると共に、各学年においても学年主任を中心にさまざまな面で指導し、効果を上げた。 * ネイティブに年1回の公開授業を義務付け、授業の規律等についても説明する機会を設けたので、ネイティブ自身の授業スキルに対する興味が高まった。

学 校 関 係 者 評 価
<p>学校関係者からの意見・要望・評価等（3月22日実施）</p> <p>以下の観点から、評価を実施した。</p> <p>①今年度の学校評価の内容が適切かどうか。 昨年度と同様、児童・保護者・教職員に対してアンケートを行ったが、保護者宛の学校評価の手紙には、教員対象のアンケート結果は出さなかったが、それでよいと思われる。</p> <p>②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。 先生方は精一杯取り組んでいる。特に2月の大雪の日に、先生方が雪の中何度も、駅まで往復している姿には頭の下がる思いだった。 卒業式が素晴らしかった。 すべて保護者の意見を聞くのではなく学校側に任せていただく部分があってもよい。 校長がブログを書いているのはとても良い。校長の考えも知らせることができるし、校長が子どもたちの学校生活に関わっていることも分かる。 社会に出れば、自分の意見が通らないこともあるということを小学校の間に理解させるべき。</p> <p>③保護者学級委員の活動について 以前は評議員会や保護者運営委員会など、頻繁に集まりをもっていたが、集まる回数が減った。 仕事を持っている母親も増えたので無理はできない。 大きな問題が起これば集まらなければならないが、そうでなければ集まる回数はこのままでよいのではないかと。</p>